

実践報告

札幌市立月寒小学校

継続研究 5 年目

(1) 研究内容

研究課題：「札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）」において4年生の社会科の学習と関連させて、施設見学と同施設の体験プログラムを活用し、アイヌ民族の文化や歴史、人権などをアイヌ民族の方から直接学ぶ体験学習」

研究課題を通して育てたい力

◎札幌市教育課程編成の手引に沿って、社会科及び総合的な学習の時間を通し、基本的な人権の尊重に立った教育の推進を図る。

- 具体的には、北海道の先住民族のアイヌ民族が築いてきた歴史や文化を学び、正しい知識を得て、理解を深める。また、衣食住や遊びから、自然を生かした知恵について考えることができるようにする。さらに、アイヌ民族の社会や文化を尊重する態度を養う。
- 文化の多様性を理解し、互いの文化を尊重できる力を育てる。かけがえのない人間としての尊厳を認め合い、一人一人が自他の生命を尊び、あらゆる偏見や差別をなくし、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】「札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）の施設見学と体験プログラムの利用」について

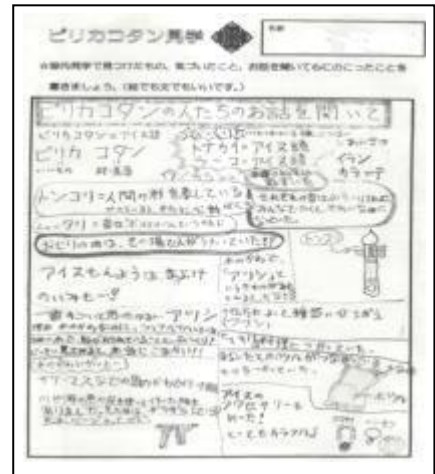
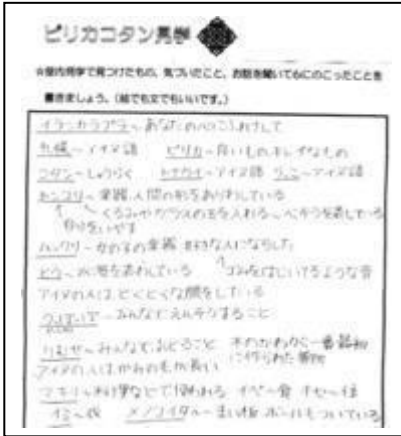
○ ねらい

ピリカコタンの展示物や施設を見学し、アイヌ民族の文化や歴史についての理解を図る。

- ・文化財等の実物に触れたり、歌や踊りを体験したりするなどしてアイヌ民族の文化や歴史などに親しむ。
- ・アイヌ民族の方々から直接学ぶ体験的な学習（交流）を通して、関心を高め、アイヌ民族の文化や歴史を理解し、文化の多様性と人権を尊重する態度を育てる。

○ 学習内容

- ・北海道の先住民族のアイヌ民族が築いてきた文化や歴史を学ぶ。
（屋内展示室・屋外施設見学・質疑応答等）
- ・アイヌ民族の衣食住や遊びについて調べたことから、自然を生かす知恵について考える。（チセ見学・カリプ体験・縄跳び等）
- ・アイヌ民族が語り伝えてきた話や儀式を学ぶ中で、自然と共に生活しているアイヌ民族の思いや願いを学ぶ。（歌や踊り、演奏の鑑賞・舞踊体験）



(3) 研究のまとめ

① 成果

子どもにとって、アイヌ民族の歴史と文化に触れられる機会は、何よりも貴重な学習である。整った設備と展示方法が工夫されたレイアウト、そして直接、関わっていただいたアイヌ民族の方々との交流学习は実感を伴った学びとなった。特に、歌や演奏・踊りは、印象深いものになった。

また、子どもたちから狩りの仕方を、遊びを通じて習得していたことに体験を通して気付くことで、アイヌ民族の文化の奥深さについて理解できた。アイヌ文化への親しみや文化を継承していくことの大切さを感じていた。

アイヌ民族に対して、北海道の先住民族という子どもの認識が、体験的な学習活動を通して、北海道の礎を築いてきたアイヌ民族という認識に変わった。自然や他者を尊重する生き方の素晴らしさを感じることができる学習プログラムであることは、見方や考え方の変容を生むことができる。

② 課題

アイヌ民族の歴史や文化・生活といった面に重点を置いた指導計画であったため、人権教育に焦点化する指導内容と方法を工夫していく必要がある。しかし、アイヌ民族の方々との交流から、心を通い合わせようとする前向きな姿勢が見られた。



③ 提言「人権教育のすすめ」

人との出会いを大切にすることや民族・文化を理解することが、相手を尊重する第一歩であると考え、「アイヌ民族の人権が守られる社会は、自分たちも含めみんなが尊重される社会となる」という学習に他の教科・領域でも取り組むことで、人権への理解がさらに深まるような教育課程の編成を行う。